

1997年9月18日(木)～10月30日(木)

博物館実習生が制作した寄贈品コーナー 「飛ぶ一翼と羽一」



9月10日から18日の1週間、博物館実習生13名を受け入れました。例年のスケジュールのとおり、初日はガイダンス、2日3日は分野別の整理、4日目は普及事業の参加（漂着物を拾う会）そして最後の3日間は寄贈品コーナーの展示制作を行いました。今年の展示担当は浜口学芸員。資料は鳥の剥製・骨格標本、鳥の羽や羽を使った製品です。これらの資料を使って、展示の意図、展示の構成や資料の見せ方の実習です。大変悪戦苦闘しながらの展示ですが、是非ごらん頂きたいと思います。



実習生参加記

博物館というものは、人々にとっていろいろな発見のできるばであり、その人達によって支えられているのだという事を実感しました。来年には2階の展示が変わるようですが、これからも来る人皆が楽しくて、いろいろな物などに対する「見る目」が少し変わるような博物館であって欲しいと思っています。(Y・K)

博物館に実習にきて行事に参加したことで自分の好きなことを長いあいだ続けてきてる。まるで博士のような市民の方がいることを知りました。今まで私がみていた展示というものは博物館のほんの一面でしかなく、みんなが参加し活動する場として、いつも「うごいている」ところなのだと感じました。(S・N)

展示制作ではアミダくじに負けて文字・文章の担当者になってしまい（しかも、自分が後から入れた線で、自分になってしまい）悲しいですが大変でした。一つのテーマを紹介するには、こんなにたいへんだとは。

改めて実感し、他の展示を考えながら作られているんだと思い直し、見方を変えようと思いました。(A・N)

「大学生」および「実習生」という『理性』で抑えて学生達は博物館にやってくるわけだが、そんな中でも一人ぐらいは「たが」が外れて群の中で浮いてしまうヤツがいる。そう。私です。(H・I)